

【目次】

晋山開堂の部

山門	3
仏殿	11
伽藍・土地堂	20
祖堂	29
開山堂	35
據室	38
視篆	44
拈衣	46
拈山門疏、他	48
指法座・登座	49
拈香	53
鈞語・垂語・索語	57
提綱	64
自叙(自序)	75
謝語	77
拈則	84

晋山疏

退院法語の部

法戦祝語の部

晋山疏	95
退院法語の部	103
法戦祝語の部	
五字	139
六字	144
七字	147
八字	154
十字	160
十二字	169
十四字	170
賀偈の部	
賀晋山・結制等	215
賀壽	233
〈付録〉晋山結制——法要解説と資料	237
参考文献	251

凡例

- 一、本書は、晋山開堂に関わる法語を主として集録し、併せて退院法語、首座法戦式の祝語、賀偈を載せた。
- 一、晋山開堂の部は、晋山並びに開堂の法語を、洞門の祖師古徳の实例を中心に集め、山門法語以下、法語の種類別に排列した。作者(僧名・敬称略)は見出しの下に記し、「」内に韻目を示した。
- 一、上段に原文(漢文)、下段に訓読文を記し、最下段に理解の便を計って脚注を設けた。訓読は原文の返り点に従ったが、訓じ方は確定したものではない。
- 一、退院法語の部は、諸祖師の語録等より、退院上堂法語の实例を中心に収めた。
退院(ついえん・ついいん)は禅院の住持がその職を辞して、寺院を退去する、または寺内の東堂に退隱することをいい、退院の時に上堂して挨拶することを退院上堂という。現在は退董式ともいわれる。
- 一、退院法語の部は、おおよそ祖師の年代順(生年順)に排列し、僧名の下に生没年、「」内に宗派名を記した。
(曹) || 曹洞宗、(臨) || 臨濟宗、(黄) || 黄檗宗。
- 一、法戦祝語の部は、首座法戦式に誦まれる祝語を、禅林句集や祖師の語録より集め、字数別で、訓読の五十音順に並べた。収録句は小社刊『一転語・法戦祝語集』『統一転語・法戦祝語集』と、ほとんど同じであるが、大意や語注を加えた。出典は大半、略記した。(巻末に出典略表を示す)
- 一、賀偈の部は、晋山結制等の賀偈と賀壽の偈を載せた。
- 一、付録として、晋山結制法要について檀信徒に解説するための資料を掲載した。

晋山開堂の部

●晋山開堂法語・用語選

山門…脚下 脚頭 門戸 入門 自開 解脱門 大解脱門 解脱門開 八字打開 金鎖玄関
 仏殿…古佛 新佛 世尊 弥勒 法王 金身 対面 白毫 巍巍堂堂 巍巍相好 応物現形
 土地堂…土地 佛勅 靈鑑 靈驗 伽藍神 靈山付嘱 護法安人 護法善神 不違佛勅
 祖堂…少林 初祖 祖師 神光 单伝 西天 此土 東土 一華五葉 四七二三 五葉聯芳
 開山堂…蔭涼 遺芳 聯綿 乃翁 心印 福田 命脈 亘今亘古 □十□世 燈燈相伝
 據室…浄名 摩羯 毘耶 丈室 此室 新任 新主人 倒臥横眠 凡聖共住 飢来喫飯
 視篆…宝篆 一篆 篆文 点画 無字 証明 印定 印破 仏祖明鑑
 登座…高座 高広 坐断 歩歩 举足 作座 踏登 法空座 燈王佛 須弥燈王 向上一路
 釣語…出来相見 試通消息 看 不妨吐露来 誰是知音有麼 出来商量看 有此漢出来
 自叙…某杜多 自惟 樗散 胆小才短 負山蚊力 衆慈 慚愧有余 伏乞 賜 恕宥
 謝語…伏惟 恭惟 枉駕光臨 枉象駕 謝謝何尽 感謝何尽 不堪 感激之至
 拈則…記得 若有 人間 山僧… 答道 对他道
 結座…伏惟 衆慈久立珍重 坐久成勞

●山門

山門(一)

金雞報曉 解脱門開
 依然引歩 脚下風雷

義雲 [上平・十灰]

金雞 曉を報じ、解脱門開く
 依然として歩を引けば、脚下風雷

山門(二)

大解脱門 八字打開
 一超直入 從這裏來

普濟善救 [十灰]

大解脱門、八字に打開す
 一超直入、這裏より来る

山門(三)

一門入得 萬戸等開
 未通達者 請隨我來

無得良悟 [十灰]

一門入得すれば、万戸等しく開く
 未だ通達せざる者は、請う我れに随い來れ

解脱門 一切の束縛を脱して自由の境界に出入りすること
 を門に譬えていう。また解脱への入り口となる三種の瞑想を三解脱門といい、空・無相・無願をいう。

八字打開 門が八の字のように開く。「謂つべし、戸牖を豁開して、爾がために一時に八字に打開し了れり」と(碧巖録五・標唱)
 這裏 〳〵この中。

入得 〳〵そこに入ってわがものとする。

山門(四)

七通八達 解脫門開
一氣亨處 萬法齊該

大光寂照 [十灰]

七通八達、解脫門開く
一氣亨る処、万法齊しく該わる

七通八達||四通八達とも。道が各方面に通じていること。

山門(五)

坐臥經行 解脫門開
到頭要入 從這裏來

白鳥鼎三 [十灰]

坐臥經行、解脫門開く
到頭入らんと要せば、這裏より来れ

坐臥經行||行住坐臥に同じ。到頭||結局のところ。つまるところ。

山門(六)

透今亙古 一門豁開
(卓拄杖一下云)
是凡是聖 速入得來

雷洲惟默 [十灰]

今に透り古に亘り、一門豁開す
(拄杖を卓すこと一下して云く)
是れ凡 是れ聖、速かに入得し来る

豁開||ひろびろと開かれる。

山門(七)

脚下無私 從鳥道來
玄關金鎖 一時打開

黙子素淵 [十灰]

脚下無私、鳥道より来り、
玄関金鎖、一時に打開す

從鳥道來||鳥が自在に飛ぶ空中の道を通つてやってきた。自由無礙の働き。
玄関金鎖||菩提・涅槃が、かえつて心を束縛すること。

山門(八)

這門高大 因佛祖開
脚頭今日 幸不惹埃

秦慧昭 [十灰]

這の門高大、仏祖に因つて開く
脚頭今日、幸に埃を惹かず

山門(九)

出如鐘響 入似月來
不勞手脚 玄門自開

[十灰]

出るは鐘の響くが如く、入るは月の来るに似たり
手脚を勞さず、玄門自ずから開く

山門(一〇)

門是通暢 何曾擇人
十方解脫 大地無塵

西有穆山 [上平・十一真]

門は是れ通暢、何ぞ曾て人を択ばんや
十方解脫して、大地塵無し

通暢||何も妨げることなくすらすら通ること。

(山門)

山門(一一)

新條日月 特地乾坤
要知端的 須入這門

玄樓奥龍 [上平・十三元]

新條||新しい法令。

山門(一二)

上天下地 大解脱門
依然引步 脚下生雲

寂室堅光 [十三元]

上天下地、大解脱門
依然として歩を引けば、脚下雲を生ず

山門(一三)

一超直入 大解脱門
佛祖吞氣 皆隨脚跟

普濟善救 [十三元]

一超直入、大解脱門
佛祖 氣を呑み、皆な脚跟に隨う

一超直入||一足飛びにその中に入る。
脚跟||くびす、かかと。

山門(一四)

打開八字 大解脱門

[十三元]

八字に打開す、大解脱門

八字打開||門が八の字のように開く。「謂つべし、戸牖を

□□山頂 枝葉是繁

□□山頂、枝葉是れ繁し

豁開して、爾かために一時に八字に打開し了れり、と」(碧巖録五・標唱)

山門(一五)

開閉在手 出入自由
纒涉擬議 劍去刻舟

北野元峰 [下平・十一尤]

開閉 手にあり、出入自由
纒かに擬議に涉らば、劍去つて舟を刻まん

山門(一六)

大乘門開 不勞彈指
相隨來也 脚下如砥

三洲白龍 [上声・四紙]

大乘の門開くに、彈指を勞さず
相い随い來るや、脚下砥の如し

大乘||寺名。
如砥||といしの表面のように平らである。

山門(一七)

嵯峨此山 密移一步
金鎖玄關 挾帶挾路

曹源滴水 [去声・七遇]

嵯峨たる此の山、密に一步を移す
金鎖玄關、挾帶挾路

金鎖玄關||菩提・涅槃が、かえつて心を束縛すること。
挾帶挾路||宝鏡三昧に出る。把住と放行。

山門(二八)

八字打開 凡聖不擇
若涉推敲 悉門外客

甘雨為霖〔入声・十一陌〕

八字に打開すれば、凡聖も扱ばず
若し推敲に涉らば、悉く門外の客

山門(二九)

眞如界内 地闊天高
佛事門中 雲行雨施

竺仙梵僊

眞如界内、地闊く天高し
仏事門中、雲行き雨施す

山門(三〇)

盡大地是圓覺伽藍
且道門限在什麼處

夢窓疎石〔処語、曙御〕

尽大地是れ円覺伽藍
且く道え 門限 什麼の処にか在る

雲行雨施 雲が流れて雨となり、万物に恵みを施すこと。

円覺 臨濟宗円覺寺派大本山、円覺寺。

門限 門のしきい。

(彈指一下云)

(彈指一下して云く)

看看宿霧初收天已曙

看よ看よ 宿霧初めて収つて天已に曙

宿霧 昨夜からたちこめている霧。

山門(三一)

八字打開 金龍門戸
南來北來 拏雲攪霧

無隠道費〔戸巽、霧遇〕

八字に打開す、金龍の門戸
南來北來、雲を拏み霧を攪む

金龍 山号。

拏雲攪霧 天に昇る龍のように志操高邁で、世俗を超越したさま。

正與麼時作麼生是入門

正与麼の時、作麼生か是れ入門の一句

露 すすつかりまるだしの意。

一句(顧視左右云) 露

(左右を顧視して云く) 露

山門(三二)

山横翠壁 水出高源
解脱門開

南浦紹明

山は翠壁を横たえ、水は高源より出ず
解脱門開く

大衆 歸去來歸去來

大衆、歸去來、歸去來

山門(三三)

既是一門
爲甚麼喚爲三門

卍山道白

既に是れ一門
甚麼すれど喚んで三門と爲す

三門 涅槃に到達するために通る、空・無相・無願の三解脱門。

爲甚麼 なぜ、どうして。

(山門)